

第百七十一話 無慈悲・徹底的な日本破壊作戦！

先に、第五十四話で「本土無差別空襲は戦争犯罪そのものだ！」と書いたが、その後米国戦略爆撃調査団がまとめた報告書関連書籍を読んで、米軍による本土空襲が、無差別ではなく極めて緻密に明確な目的・目標をもって徹底的に行われていたことを知った。無差別と称するよりも無慈悲徹底的な日本破壊作戦と称する方が妥当な気がする。

1 空襲目標都市について

先ず、東京、名古屋、大阪の三大都市を空襲目標都市とし、その後中小都市に目標を転換した。3月10日：東京、破壊率51% 3月12日：名古屋、31%、14日：大阪、37%であると報告書は述べる。大阪空襲は成功モデルになったと云われる。

更には、神戸、横浜を灰燼にした後、6月以降地方の中小都市に目標転換をした。

2 効果的な爆撃要領の選択

日本の対空・迎撃能力にもよるが、攻撃目標の特性に応じ、白昼高高度精密爆撃、夜間低高度焼夷弾爆撃を選択し、爆撃中心点(照準点)をまず爆撃後にその周囲に定型的に爆撃した。消火活動を妨害するために時間差爆撃すべく時限設定した。当初は、軍事施設や軍需工場をピンポイントで精密爆撃していたが、効率が悪いので住宅地を一気に焼滅させ都市機能を奪う焼夷弾攻撃へと舵を切った。

軍需目標には爆弾を使用し、民家・住宅地には焼夷弾を使用した。住宅密集地域もその度合いを仔細に分析して爆撃に活用した。これらは効果的な爆撃を考えると当然だ。

3 目標特性に応ずる各種の爆弾の開発と使用

○通常爆弾

- 4.5 トン爆弾(1万ポンド爆弾、パンプキン)
- 2 トン爆弾(4000ポンド爆弾)、
- 1 トン爆弾(2000ポンド爆弾)、500キロ爆弾、250キロ爆弾

○焼夷弾

- 油脂焼夷弾、
- エレクトロン焼夷弾(テルミット・マグネシウム爆弾)：神戸空襲で使用
- 集束弾(38発の子弾の油脂焼夷弾、110発の子爆弾のエレクトロン焼夷弾)

○破片爆弾(クラスター爆弾の原型)が消火活動妨害目的で使用された

4 高い破壊率(計画目標区域内の目標破壊の程度)

東京、名古屋、大阪以外では、神戸：56%、横浜：44%、堺：43%、仙台：27%、福岡：22%であると云う。富山市の破壊率は99.5%という驚異的な数字である。米軍が如何に徹底的に破壊せんとしていたか、その頃の日本が如何に無力であったかが明らかだ。

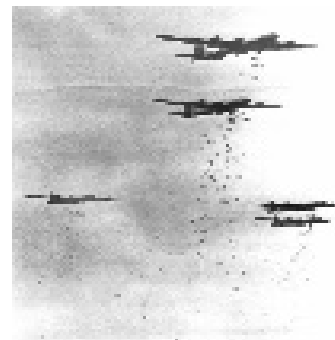
5 天候に左右された空襲

当時の航空機の能力、レーダーの能力では天候(雲量含む)を克服しての爆撃は容易ではなかった。爆撃機の1割以上が目標に到達出来なかったとも。勿論、米軍は気象観測を重視していたのだが、・・・

6 機雷敷設も実施、今に続く不発弾処理

餓死作戦と名付けて、日本の海峡や港湾に大量の機雷を46回に亘って投下した。投下機雷数は一万発と言われ、敗戦後にも蝕雷事故が起き、安全宣言が出されたのは1952(S27)年である。機雷ではないが、今なお工事現場では不発弾が発見され、自衛隊の不発弾処理隊が処理している。平成29年度の実績(陸上)：1,611件、処理重量約49.5トンで、(海上)機雷等の処理個数は12個及び処理重量は約1.8トン

7 帰りがけの駄賃で爆弾を落とされた和歌山県串本町、最終段階では空母艦載機による機銃掃射も頻繁に行われた。米軍の徹底振りが窺われる。



(第百七十一話 了)